

## 鹿児島県におけるオオスミイワヘゴ（オシダ科）の一産地

立久井昭雄

〒 890-0036 鹿児島県鹿児島市田上台

### はじめに

2025年5月、鹿児島県大隅半島の山中にて、オオスミイワヘゴ (*Dryopteris × pseudocommixta* Sa.Kurata) を確認したので報告する。

本種は、ツクシイワヘゴ (*Dryopteris commixta* Tagawa) とワカナシダ (*D. kuratae* Nakaike ex Hoshiz. et K.A.Wilson) の雑種である。

### 本種の分布

国内の分布は本州の伊豆半島、九州（海老原, 2017）、鹿児島県の分布は垂水市岳野（初島, 1986）である。標本は鹿児島大学博物館維管束植物 DB に、霧島市烏帽子岳（横川）、鹿児島市烏帽子岳、曾於市大川原峠（財部）、曾於市光神（末吉）、鹿児島大学高隈山演習林（岳野）の収蔵がある。鹿児島県立博物館収蔵資料データベースには、垂水市、霧島市横川の収蔵がある。鹿児島大学高隈山演習林（岳野）は本種の基準産地で、1957年倉田悟氏が採取し、東京大学総合研究博物館に標本が収蔵されている。以上のことから、今回の確認地は、本種の南限地になるものと思われる。

確認地は錦江町田代の樹林下で、湿り気のあるやや傾斜した川傍である。狭い範囲に9株を確認した。周囲にはツクシイワヘゴはあったが、ワカナシダは確認できなかった。

### 確認した特徴

確認した特徴として、葉柄基部の鱗片（図1C）は披針形の黒褐色で、葉軸の鱗片は狭披針形の同色で、共に縁に鋭い突起がある。1つの株（図1A）から15本程の葉を出し、葉身の長さ58cm、幅22cm、葉柄の長さ21cm程である。羽片（図1B）は間隔が広く着き、下部では羽片間が3cm程ある。基部羽片（図1D）はやや小さく、中部の最も大きなものは、長さ11cm、幅1.5cm程である。裂片間はやや広くV字に開き、裂片の先は丸い。胞子嚢群（図1F）はワカナシダよりやや大きく、包膜（図1E）には大小が混じる。

### 証拠標本

今回作製した標本は鹿児島県立博物館（KAP）、鹿児島大学総合研究博物館（KAG）に収蔵することにしている。

### 引用文献

- 海老原 淳. 2017. 日本産シダ植物標準図鑑2. 学研プラス, 東京. 450 pp.
- 初島住彦. 1986. 改訂 鹿児島県植物目録. 鹿児島植物同好会. 鹿児島. 290 pp.
- 鹿児島大学博物館維管束植物 DB Rel. 2.20 <[https://dbs.kaum.kagoshima-u.ac.jp/musedb/s\\_plant/s\\_plant.php](https://dbs.kaum.kagoshima-u.ac.jp/musedb/s_plant/s_plant.php)> (accessed 4 December 2025)
- 鹿児島県立博物館収蔵資料データベース <[https://jmapps.ne.jp/kagoshima\\_pref\\_museum/index.html](https://jmapps.ne.jp/kagoshima_pref_museum/index.html)> (accessed 4 December 2025)



図1. 大隅半島で確認したオオスミイワヘゴ。A: 1つの株。B: 羽片。C: 葉柄基部の鱗片。D: 最下羽片。E: 包膜。F: 孢子囊群。